

# 「肝炎ハンドブック」を使って 肝炎・肝臓がん対策を進めよう

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日時 平成24年8月11日（土） 午後3時20分～午後4時30分
- 場所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 28人  
岡本健対協会長、川崎対策委員長  
青木・石飛・大口・大城・岡田・岡本欣也・岸本・孝田・清水・瀬川・  
西村・野坂・藤井・松木・松田・満田・村脇・山下・吉中各委員  
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：下田課長補佐、山根係長  
オブザーバー：廣田米子市保健師、宇佐見米子市保健師  
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

## 【概要】

・平成23年度の県の肝炎対策事業として、肝炎医療従事者研修会を開催した他、肝炎ウイルス検査受診勧奨のリーフレット及びポスターを作成、B型ウイルス性肝炎とC型ウイルス性肝炎を中心に、病態、各種治療法、日常生活での注意点、公的支援制度、肝疾患専門医療機関、鳥取県肝疾患相談支援センターなどの情報を掲載した「肝炎ハ

ンドブック」を作成し、市町村や医療機関等を介し、肝炎ウイルス陽性者、肝炎患者に配布した。

・ウイルス陽性者に対しては、市町村より、年1回の定期検査の受診勧奨を行っているが、年1回では、検査から検査の間が空き過ぎ、大きながんが見つかる症例がある。よって、早期に小さながんを発見するためには、市町村から年2回受診して頂くよう

受診勧奨して頂きたいという意見があった。

## 挨拶（要旨）

### 〈岡本会長〉

鳥取県は、平成7年度よりB型、C型肝炎ウイルス検査を開始し、その後、定期検査フォローアップ事業が中心となり、それからインターフェロン治療と広がっている。鳥取県は非常にいい成績が出ていると感じている。その一方で、鳥取県のがん75歳未満年齢調整死亡率は全国ワースト2位という結果が出ている。県民のためになる肝炎対策について、ご協議願います。

### 〈川崎対策専門委員長〉

先に開催された「肝炎対策協議会」で、鳥取県のがん死亡率がいい方向にいかないという報告が県よりあった。この委員会において、肝炎対策により力を入れていかないといけないと思いますので、委員の皆様のお力添えをお願いします。

## 報告事項

### 1. 鳥取県肝疾患専門医療機関の選定について：

下田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

平成21年10月に指定した「肝疾患専門医療機関」の指定期間が満了となることから、本日開催された『鳥取県肝炎対策協議会』において再選について協議された。その結果、10医療機関を再選することが決まり、その結果を知事へ報告し、知事が正式に指定を行う予定である。次回指定予定期間は平成24年10月1日から平成27年9月30日。

### 2. 肝炎医療費助成事業における受給者の傾向について：

下田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

平成20年4月より開始した肝炎医療費助成事業における本県受給者の傾向を分析した。

調査対象者：平成20年4月から平成24年7月末までの新規受給者（更新、2回目利用、期間延長除く）

### （1）B型慢性肝炎

治療者数627人中、IFN23人（3.7%）、核酸アナログ604人（96.3%）で、核酸アナログが圧倒的に多かった。男女比は、女性203人（32.4%）、男性424人（67.6%）。

IFN治療は、患者数は多くないものの、20～30歳代の若年層に多い傾向。

核酸アナログ製剤療法は、50～60歳代が最も多く、特に男性が多い傾向にある。30～40歳代の男性も多い傾向にある。

### （2）C型慢性肝炎

治療者数611人中、PegIFN/RBN以外73人（11.9%）、PegIFN/RBN538人（88%）。男女比は、女性311人、男性300人で男女差は見られなかった。

### （3）3剤併用療法

平成24年7月までに22人が治療。男性10人、女性12人で性別に大きな差はない。男女とも、60歳代が多い傾向にある。

東部に居住する人が14人と多かった。

初回治療例が40.9%と最も多く、次いでPegIFN/RBN再燃例31.8%と続く。

### 3. 平成23年度・平成24年度実施の鳥取県の肝炎対策事業：下田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

#### （1）肝炎医療従事者研修会の開催について

県は、肝炎ウイルス感染者等が早期に適切な治療につながるよう肝疾患診療連携拠点病院、肝疾患専門医療機関、市町村及び県福祉保健局に在籍する看護師、薬剤師及び保健師等を対象に、鳥取県肝炎医療従事者研修会を平成24年1月28日（土）、「国際ファミリープラザ」（米子市）におい

て開催し、受講者は23名であった。平成24年度も研修会を開催する予定である。

(2) 県は、肝炎ウイルス検査受診勧奨のリーフレット、ポスターを作成した他、B型ウイルス性肝炎とC型ウイルス性肝炎を中心に、病態、各種治療法、日常生活での注意点、公的支援制度、肝疾患専門医療機関、鳥取県肝疾患相談支援センターなどの情報を掲載した「肝炎ハンドブック」を作成し、市町村や医療機関等を介し、肝炎ウイルス陽性者、肝炎患者に配布した。

これらについては、県のホームページにPDFで掲載している。

#### 4. 鳥取県肝炎対策推進計画（案）について：下田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

本日別開催された鳥取県肝炎対策協議会に鳥取県肝炎対策計画案を提示し、その内容について協議したことについて、本委員会において報告がなされた。この委員会の意見も伺いながら、平成25年1月にはパブリックコメントの実施、鳥取県肝炎対策協議会の協議を経て、3月には鳥取県肝炎対策計画を策定、施行していく予定であるとのことだった。

肝炎ウイルスへの感染を早期に発見し、早期に適切な治療につなげるための体制づくりと肝炎に関する正しい知識の普及啓発を全体目標として、計画を作成していく。

委員からは次のことについても、調べてみる必要があるのではという意見があった。

・母子感染を心配してというより、小児科学会は小児の希望者にはB型ワクチン接種をしようと

いう動きがあると聞いたことがある。小児科医から現状を聞く必要があるのではないか。

#### 5. 肝臓がん検診精密検査医療機関実施要綱の一部改正について

昨年度の委員会において、超音波検査機器のデジタル化等に伴い、「肝臓がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正され、平成25年4月より適用されることとなった。

今年度中に更新手続きを行うため、健対協より医療機関に周知を行った。

今回は超音波検査機器の登録基準の見直しを行ったが、エコーの写真がきれいに撮れることが重要であり、医師の技量向上が大切であるという話があり、従事者講習会等で引き続き指導を行っていくことが確認された。

#### 6. その他

ウイルス陽性者に対しては、市町村では、年1回定期検査を受けて頂くよう、フォローアップしているが、年1回では、検査から検査の間が空き過ぎ、大きながんが見つかる症例もある。よって、年2回受診して頂くことで、早期に小さながんが見つかるので、ウイルス陽性者に対しては市町村から年2回受診して頂くよう受診勧奨して頂きたいという意見があった。

#### 協議事項

##### 1. 肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会について

平成25年3月2日（土）、西部地区で開催予定。会場及び講師については、村脇委員、孝田委員に一任。